

【実践報告】

人間福祉学会 島根ブロック大会 活動報告

広島文教女子大学 人間福祉学会 事務局

I. はじめに

広島文教女子大学人間福祉学会は、教員・卒業生・在校生が中心となり、卒業後の学びの場、情報交換の場となることを目的として、平成14年に創設されました。本学会も13年目を迎え、多くの卒業生の活躍を耳にする機会も増えてきました。

島根ブロック大会は昨年度初開催となり、今年度2回目の開催となりました。昨年度よりも参加者も多く、島根県で活躍されている福祉専門職の方も参加してくださり、充実した大会となりました。

本大会では、第1部に島根県在職卒業生による実践フォーラムを行いました。第2部では実践フォーラムを踏まえての交流会を行い、第3部情報交換会、第4部に大会総括を行ないました。主に第1部、第2部の概要についてご報告いたします。

II. 日時・場所

(日時)

平成27年8月8日(土)～9日(日)

(場所)

第1部・第2部 出雲市民会館
(出雲市塩冶有原町2丁目15番地)

第3部・第4部
ニューウェルシティ出雲
(島根県出雲市塩冶有原町2丁目15番1号)

III. 内容概要

1. 実践フォーラム

テーマ「福祉実践の現状と課題」

講演者 1期生 萩本 友美 さん 高齢者分野
1期生 新宮 三浦子 さん 地域福祉分野
1期生 曳野 由季子 (旧姓：細田) さん 精神保健福祉分野
2期生 宇谷 裕樹子 さん 医療福祉分野
5期生 岡本 麻希 さん 障がい分野
8期生 井上 侑香 さん 児童分野

福祉実践の現状と課題をテーマに、大学卒業後の進路、仕事内容、福祉現場の現状、課題などを順番に報告していただきました。

報告の中では、福祉現場の人材確保、利用者に関わる時間の確保、中途採用者の福祉に対する意識、離職率、高齢者世帯の増加、女性が働き続けることなど、さまざまな課題が出てきました。分野ごとの特有の課題や、分野は違っても、共通の課題も報告されました。また、地域との連携が円滑に進み、ケアや支援が充実しつつある地域が見られる一方で、地域との連携が必要なことは理解してはいるものの、現状の人材や体制では困難であり、その葛藤を抱えながら日々の業務に追われているという現状も報告されました。このような現状の改善には、一つの福祉施設だけではなく、地域、制度、一人ひとりの意識など様々な課題があるということが明らかになりました。現状では急激な変化が難しいことが多くある一方で、島根県在職の卒業生の取り組みが確実に地域に定着してきているということも確認できました。研修会での報告は、地域の取り組みの一例ですが、どの分野で働く卒業生も、支援が必要な人、その家族のを中心に据えて、安心してより豊かな生活ができることを目指していくにはどのようにしていくことが良いか、熱く語り、予定時間を超過してしまいました。また、6分野の専門職の熱い発表から見えてきたものは、現状に葛藤しながらも、福祉の仕事に誇りを持ち、明るい未来のある職場作りを目指しているということや、大学で学んだ知識をベースに、実践をとおして学びを深めているということです。その過程では、時には大学で学んだことを振り返り、初心に返りながら、生活を支える上で、自分の生活を当たり前の基準と考えずに、当たり前は人によって違うことを常に意識しながら日々取り組んでいる姿を垣間見ることができました。

女性が働き続けるということでは、出産、子育てと仕事を両立させていくには家族の協力、職場の理解が必要なことは周知のことです。経験者である精神保健福祉分野で精神保健福祉士として働く卒業生の報告の中の、「子育てを充実させていくためには、仕事を周りの人に補ってもらわなければならない。自分にしか出来ない仕事、利用者が自分にしか相談できない関係は作らないことを、専門職として長く働く上で大切にしています。利用者が関係が断ち切られたと感じ

ないような関係づくりなど、自分も補ってもらい人も働きやすい環境を作っていくことが重要です」という部分に感銘を受けました。

6名の報告を聴きながら参加者は、将来の自分と重ね合わせながら、今後の自分の働き方、福祉の仕事のやりがいや難しさを改めて考えると同時に、この頼もしい先輩や同僚が同窓生であることに加え、島根県在職で身近に存在するという安心感を抱いていたのではないのでしょうか。



IV. 総括

第2回目となる島根ブロック大会は第1回目よりも参加者が多く、より実践的な話をする事ができる大会となりました。文教生だけではなく、島根県で働く方々にも参加していただき、福祉の仕事の魅力、現状と課題について考え、多くの意見を聴くことができた大会となりました。島根の福祉現場で働く文教生は、心強く感じ、同じ気持ちで仕事をする事ができる喜びを感じていました。卒業生と話した在校生は、自分もこのように働くことができるだろうかという不安と、このようになりたいという希望をもつことができました。この大会をきっかけに卒業生と在校生がつながり、職場訪問をするきっかけを作ることもできました。

来年度以降の開催については、開催時期や内容、卒業生の参加者を増やすなど課題は多くありますが、様々な意見を参考にしながら、運営していきたいと考えています。



2. 実践フォーラムを踏まえての交流会

実践フォーラムを踏まえて、交流会を行いました。卒業生、在校生、島根県の福祉現場で働く方々、教員が福祉に対して感じることや、課題、取り組み、意見を出し合いました。昨年度もこのような交流会を設けましたが、今年度は文教生でない現場の方々にも参加していただき、現場が求めるものをお話いただきました。人材確保の難しさ、長く働くことができるような環境作り、職場への定着というような課題についての取り組みを聴かせていただきました。島根で働く卒業生は、地域の課題を違った視点から聴くことができたことで、地域の取り組みを再確認することができました。参加した在校生は島根出身で、将来島根で働くことを考えながら、在学中に取り組むべきことを確認するきっかけとなりました。

